

## DI ニュース

### 季節性インフルエンザの流行の前に

2022. 10

南半球のオーストラリアでは2022年4月後半からインフルエンザ患者の報告数が増加し、医療が逼迫しました。日本では今年6月に東京都内の小学校で2年3か月ぶりにインフルエンザによる学年閉鎖が発表されたことから、今秋から冬にはインフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行が危惧されています。そこで、インフルエンザの感染予防について考えてみました。

#### ① 標準予防策

過去2年間国内でインフルエンザの流行がなかったことから、手洗い、マスクの着用、換気、3密（密接・密閉・密集）を避けるなどの新型コロナウイルス感染症予防策はインフルエンザの感染予防策としても有効と考えられます。

#### ② インフルエンザワクチンの接種

今年のオーストラリアでの流行を参考にすると、日本でもA香港型の流行が主流になる可能性があります。今年は過去最大量の約7,000万回分（成人）が供給される見込み（8月時点）です。ワクチンを接種することで、発症しても一定の重症化防止効果は期待できると考えられます。早めの感染予防対策として、12月中旬までに接種を終えることが望ましいとされています。

#### ③ インフルエンザ治療薬

当院において予防投与の適応を持つインフルエンザ治療薬の種類と特徴を表に示します。

製品名	イナビル®吸入粉末剤 20mg	タミフル®カプセル 75	ゾフルーザ®錠 20mg
一般名	ラニナミビル	オセルタミビル	バロキサビル マルボキシル
剤形	吸入	経口	経口
治療 用法・用量 (成人)	40mg 単回	75mg を 1日2回5日間	40mg 単回、 80kg 以上では 80mg 単回
予防 用法・用量 (成人)	40mg 単回又は、 20mg を1日1回2日間	75mg を 1日1回7～10日間	40mg 単回、 80kg 以上では 80mg 単回
妊婦、授乳 婦への投与	有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与。	有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与。ヒト母乳中へ移行することが報告されている。	有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与。

次頁に続く

製品名	イナビル®吸入粉末剤 20mg	タミフル®カプセル 75	ゾフルーザ®錠 20mg
一般名	ラニナミビル	オセルタミビル	バロキサビル マルボキシル
腎機能障害患者への投与	状態を十分に観察しながら投与する。使用経験が少ない。	10 < Ccr ≤ 30 治療 75mg 1日1回 予防 1回 75mg 隔日  透析患者 75mg 単回投与で5日間有効治療濃度を維持	主に肝臓で代謝・排泄されることから、腎機能障害患者に関する注意は設定されていない。
その他	確実に吸入ができれば1回の治療で完結できる。吸入薬なので、重症例や肺炎、気管支喘息合併例では使用すべきではないと考えられている。	全世界で使用され最もエビデンスのある薬剤。10歳以上の未成年の患者においては原則として使用を差し控えることとされていたが、2018年8月21日からは10歳代もタミフルを使用できるようになった。	単回経口投与で治療が完遂する。インフルエンザに対する免疫能の低い幼児や免疫不全患者では、薬剤低感受性*ウイルスの出現リスクが高くなるものと考えられている。

\*薬剤低感受性…薬が効きにくい

インフルエンザ治療薬では、インフルエンザ曝露後の発症予防を目的として予防投与が行われることがあります。対象者は原則として、インフルエンザウイルス感染症を発症している患者の同居家族又は共同生活者である、高齢者（65歳以上）、慢性呼吸器疾患又は慢性心疾患患者、代謝性疾患患者（糖尿病等）等に限定されています。世界保健機関、米国疾病予防管理センター、日本における2020/21シーズンのインフルエンザ治療薬の薬剤感受性に関する報告では、H1N1、H3N2、B型の何れの型にも低感受性株の増加はみられませんでした。今後も引き続きインフルエンザ治療薬を適切に選択し、使用することが望まれています。

この2年間インフルエンザが流行しなかったため、社会全体のインフルエンザに対する集団免疫は低下していると考えられています。日本感染症学会は、小児、妊婦も含めて、接種できない特別な理由のある方を除き、出来るだけ多くの方に積極的なインフルエンザワクチンの接種を推奨しています。また、厚生労働省はホームページにインフルエンザ総合対策を掲載し、適切な対応を呼びかけています。新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンは同時接種することが可能です。我々にできる予防策を取り入れてみましょう。

#### 参考資料

日本感染症学会提言

厚生労働省ホームページ

各医薬品添付文書、各医薬品インタビューフォーム

白鷺病院 透析患者に対する投薬ガイドライン